

ホーチミン日本人学校 帰国報告

2011年度～2013年度 ホーチミン日本人学校派遣教員
旭川市立神楽中学校 教諭 瀧 繁之

1. ベトナムの概要

- ・正式名称：ベトナム社会主義共和国
- ・面積：約33万km²
※日本の約0.9倍
- ・首都：ハノイ
- ・人口：約9000万人
- ・民族：ベト族が約90%，その他華族やクメール人など少数民族が53ある。
- ・平均年齢：約28歳
- ・公用語：ベトナム語（都市部では英語がかなり通じる）
- ・通貨：ベトナムドン（VND） ※10000VND≒50円
- ・特産品：コーヒーの生産量が世界第2位
- ・国境を接する国：カンボジア，ラオス，中国



・カンボジアとの国境



・民族衣装アオザイ



・通貨ベトナムドン

〈国〉

ベトナムは南北に細長く、飛行機なら約2時間、鉄道なら一番速い列車でも32時間かかる。また、地域によっても気候が違い、北部のハノイでは冬は10度を切ることがあったり、中国との国境近くになると雪が舞う地域もあったりする。逆に南部では年中真夏で、ホーチミンは年間の平均気温が28度もあり、寒い時期でも25度を下回ることはあまりない。

人口が一番多い都市はホーチミンで800万人が生活している。第2位は首都のハノイ、第3位は北部のハイフォン、第4位は中部のダナンである。

ベトナムといえば戦争のイメージが強いが、1976年終戦のベトナム戦争の傷跡はほとんど残っていない。ただ、ホーチミン市内には世界的に有名な「戦争証跡博物館」があり、連日多くの外国人が見学に来ている。また、ホーチミンの隣に「クチ」という街があるが、そこにはベトナム戦争時に使われた総延長数百kmに及ぶトンネルが残されており、ここも多くの外国人が見学に来ている。

〈ベトナム人〉

ベトナムの人たちは親日家であり、日本人には親切に対応してくれる。日本に興味関心を持っているベトナム人も多く、都市部には日本語学校が複数あったり、中学校でも選択教科に日本語があったりするので、街中や路線バス内で日本語で話しかけてくるベトナム人も少なくない。

ところで、ベトナムの人たちは年配者や弱者にとっても優しい。例えばバスに乗車する年配者がいると、手をとったり、荷物を持ったり、という光景が日常的に見られる。

また、親を大切にする習慣が残っており、田舎から出稼ぎに来ている若者の中には、自分の生活を切り詰めてでも親に仕送りをしている者が多いと聞く。

〈乗り物〉

ベトナム人にとって主な交通手段はバイクである。自家用車を持っているベトナム人は、富裕層のごくわずかだが、大人の多くはバイクを所有している。そのため朝晩はバイクの洪水で、道は大渋滞になる。交通マナーは良くなく、信号無視、逆走、歩道走行は日常的に見られる。また、家族の交通手段もバイクのため、家族全員が一台のバイクに3人乗り、4人乗りしていることも珍しくない。なお、ベトナムでは大きな乗り物が優先されるため、優先順位はバス・トラック、自動車、バイク、自転車、歩行者である。



〈治安〉

治安はとても良く、夜中一人で歩いても身の危険を感じることはほとんどない。また、教員や駐在員の配偶者も日中は一人で買い物に出たり、街中を歩き回ったりしてもまず心配はいらない。ただ、日本以外はどここの国も同じだと思うが、スリや引ったくりは多いので注意しなければならない。特に近年は人を引きずってでもバックなどを強引に盗ろうとする引ったくりも増えてきているので、注意が必要である。

2. ベトナムの歴史

- ～938年 北属期（中国王朝支配期）
- 938年～ 独立王朝時代
- 1887年～1945年 フランスの植民地
- 1945年～ 南北分断時代
- 1946年～1960年 インドシナ戦争
- 1973年 日本との外交関係樹立
- 1965年～1976年 ベトナム戦争
- 1976年 ベトナム社会主義共和国成立
- 1986年 ドイモイ（刷新）政策開始
（改革、開放路線に踏み出す）
- 2013年 日越国交樹立40周年記念



2013年日越40周年の
ロゴマーク



・南ベトナムと北ベトナムの
かつての国境



・ベトナム戦争終結時の写真
大統領府に戦車が突入！



・フランス様式の
教会

3. ホーチミンの概要

- 1975年まではサイゴン（Sài Gòn）と呼ばれていた。現在でも港や駅は「サイゴン駅」「サイゴン港」と呼ばれている。
- ベトナムで一番人口が多い。2013年現在800万人である。
- 商業都市で、とっても賑やかである。在住者はハノイは東京、ホーチミンは大阪のようだ、と言っている。
- 年中夏！年間の平均気温は28度。最高は40度、最低でも25度を下回ることはほとんどない。
- 天候は両極端。5月から12月の雨季は毎日スコール。逆に1月から4月までの乾季はほとんど雨が降らない。
- 日本人は8000人程度が暮らしている。日本人街もあり、近年は日本食レストランの進出が増えている。



4. ホーチミン日本人学校

〈概要〉

- ・正式名称 日本国総領事館付属商工会立ホーチミン日本人学校
- ・創立 1997年
- ・児童生徒数 358名（平成25年度）
- ・スタッフ数 文部科学省派遣教育 14名
財団派遣教員 11名
英会話スタッフ 8名
現地スタッフ 9名
- ・学費 入学金 500USD
授業料 月額400USD
スクールバス 月額130USD
- ・学校施設 一般教室16, 英会話教室3, 理科室（2）, 音楽室（2）, コンピュータ室（2）, 図書室, 図工室, 集会室, 会議室, 体育館, プール, 校庭



本校は1996年にベトナム初として開校した、首都のハノイ日本人学校に続いて、1997年にホーチミン市郊外に小中併置校として開校した。当初は15名の児童が在籍したが、その後日本企業のベトナム進出増加に伴い、10年間で児童生徒数が約10倍になるなど、急激に増えていった。私が勤務した時も年間40名以上自動生徒数が増加し、私の勤務最終年度は350名を越え、2014年度にはついに400名に達した。そのため校舎も手狭になり、2006年度に1度目の増築、2013年度には2度目の増築を行った。しかし、その校舎も5年持つかどうかという噂もあるくらい、児童生徒数の増加は続いている。

児童生徒の90%以上はスクールバスで通学しており、中には1時間以上かかる場所から通ってきている児童生徒も見られる。児童生徒増加に伴いスクールバスも増車しており、2013年度は16台のバスを使用していた。

〈教員〉

教員は文部科学省派遣と財団派遣がほぼ半々であり、財団派遣教員が他の日本人学校に比べて多いと思われる。2クラスずつある小学部では、文科省派遣と財団派遣で担任のペアを組み、理科や社会の専科も財団派遣が受け持っている。関係は大変良好で、協力しながら和気藹々と仕事をしている様子が見られる。また、教科によっては小学部も中学部も授業を持つことがあるが、小中間の先生方の関係も良好であるため、ちょっとしたことで気軽に相談することができたり、積極的な情報交流をしたりすることができる。そのため、職員室の雰囲気も明るく、仕事がしやすい環境である。

〈特色ある活動〉月に1回の群読朝会

小学部は週1回、中学部は週2回の課外活動

ネイティブによる英会話の授業は小学部は週3回、中学部は週2回。

週1回の朝運動

〈主な行事〉

- 4月 ・新任式, 始業式, 入学式 ・学級懇談会 ・解放記念日
- 5月 ・メーデー ・運動会 ・中間テスト(中) ・英会話公開授業
- 6月 ・英検 ・中2修学旅行 ・期末テスト(中) ・進路説明会
- 7月 ・漢字検定 ・水泳記録会 ・七夕集会(小)
・韓国学校との交流(中) ・FFSC交流会(中)
・教育相談 ※ストリートチルドレンとの交流会
- 8月 ・夏休み
- 9月 ・国慶節 ・進路説明会
- 10月 ・ホーチミン祭 ・英検 ・中間テスト(中) ・3カ国英語イベント
- 11月 ・小5, 中1自然学校 ・小6修学旅行 ・期末テスト(中)
・英会話公開授業 ・レバントム小との交流(小)
・PTAバザー
- 12月 ・リレーカーニバル(小) ・教育相談 ・冬休み
- 1月 ・書き初め展 ・百人一首大会 ・職場体験学習
・英検
- 2月 ・テト(旧正月)休業 ・期末テスト(中)
・日本語コンテスト表彰式(中) ・商工会バザー
- 3月 ・中3を送る会(中)
・サンキューフェスティバル(小)
・卒業式, 修了式



・入学式(中学部)



・七夕集会



・運動会



・韓国学校との交流



・FFSC交流会



・日本語コンテストでの交流



・ホーチミン祭



・中学部修学旅行



・職場体験学習

ホーチミンのコンサート事情

私の専門は音楽なので、ホーチミンではクラシックのコンサートがどのように行われているのか調べてみた。

1. コンサートを開催する場所

- 多く開催されるのが、ホーチミン中心部の1区にある通称「オペラハウス」である。「オペラハウス」はフランス人が設計した重厚なバロック建築で、フランス統治時代の1898年に建設された。現在はコンサートやバレエ、演劇などの公演で使用されている。座席数は約1800席。
- 当初はオペラハウスとして建設されたが、南北の内戦時には南ベトナム共和国政府の国会議事堂として使用されるようになった。しかし、1976年の南北統一後は内戦で受けたダメージが修復され、市民のための劇場として再出発した。
- また、オペラハウス以外では同じく中心部1区にある音楽大学のホールでも演奏会を開催することがある。
- 主に下記に説明するHBSOが演奏を行うが、それ以外にも他のオーケストラが演奏することがある。



• ホーチミン中心部に建てられている。



• 正面より。この日は入り口前でコンサートが開催中。

2. コンサートのプログラム

- 日本人にもおなじみのベートーヴェンの「運命」チャイコフスキーのピアノ協奏曲、ヘンデルの「水上の音楽」など、有名な曲が演奏されることが多い。他にもチャイコフスキーの「くるみ割り人形」やヘンデルの「メサイア」、モーツァルトの「魔笛」など大曲が演奏されることもある。



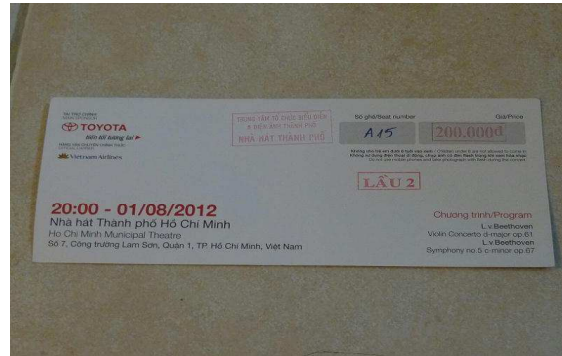
• コンサートのプログラム（表紙）。



• コンサートのプログラム（演奏曲）。

3. チケット

- チケットはとても安い。通常、一般席は15万ドン（750円）、25万ドン（1250円）、40万ドン（2000円）である。オペラなどは値段が上がるが、それでも40万ドンから70万ドン（3500円）である。また学生チケットもあり、8万ドン（400円）とかなり安く入場できる。
- オペラハウス入り口横にはチケットカウンターがあるが、まともに買えたことは少ない。17時までなので、10分前に行くと「もうclose」と言われたり、「明日朝に来て」と言われたので次の日の朝に行くと「今日はチケットは売らない」と言われたり、同じように「明日来て」と言われたので次の日に言ってみると、「そのコンサートのチケットはまだ印刷していない」と言われたりして、せっかく買いに行っても空振りの時が多かった。
- チケットを購入すると手書きで座席番号を入れてくれるが、確認不足のためかダブルブッキングになることも時々見られる。



4. HBSOについて

- オペラハウスを拠点にして活動している国立オーケストラが「HBSO」（HO CHI MINH CITY BALLET SYMPHONY ORCHESTRA AND OPERA）である。月に1回程度、コンサートを開催している。
- 団員は指揮者3名、オーケストラ70名、合唱団員40人、バレエダンサー18人にマネージャー等を含めると130名以上である。
- プレイヤーの技術については、「ベトナムのオーケストラはひどい」という噂も聞いていたが、思ったよりは良かった。管楽器の技術はなかなかであると思うが、弦楽器は個々の技術の割には、音を合わせる技術が足りないと思われる。そのため弦楽器のアンサンブルではしばしば音程のずれが聴かれた。
- また、練習量の関係かその他の理由かはわからないが、コンサートによっては結構上手だったり、逆に音がずれまくっていたりと差が見られる。特にチャイコフスキーの「くるみ割り人形」を2年連続で聴きに行ったが、1回目はなかなか上手な演奏であったが、2回目は同じオーケストラが演奏しているとは思えないほど、ひどいものであった。

5. 聴衆について

- コン서트にもよるが、座席の2～3割が外国人、残りがベトナム人といった割合である。コンサートに来るベトナム人は富裕層と思われる。
- 中には正装で行く人も見られるが、多くはスマートカジュアルである。
- マナーについては日本と比べるとあまり良くない。演奏中の会話も時々聞かれたり、平気で演奏の様子をカメラで撮影したり、演奏中の出入りもたまに見られる。また、子連れで来るベトナム人も少なくないが、子供たちは途中で飽きて親の電話をいじったり、寝ている場面も見られる。ただ、思っていたよりは静かなので「こんなものか」と思えば結構快適に演奏を楽しむことができる。
- 演奏に対しては率直に反応する。いい演奏だと「ブラボー」の声がとび、スタンディングオベーションになるが、いまいちだと拍手もまばらになってしまう時がある。
- オペラハウス内の様子。3階席までである。



7. その他

- コンサートの開演時間はほとんどが20時である。ほぼ時間通りに開演となる。ただ、曲によっては3時間近くかかるものもあり、その場合は終演が23時頃になることがある。平日開催の場合、次の日が大変である。
- 途中で1度休憩が入るが、トイレが1カ所しかないのか、観客用トイレにもプレイヤーが来て用を足している。また、こぢんまりとしたロビーがあるが、飲み物を買っている売店があり、休憩中は賑わっている。(と言っても冷蔵庫が一つ置かれており、そのそばでスタッフがジュース等を買っているだけ。)

8. まとめ

- ホーチミン赴任が決まったときはクラシックの演奏会とも当分の間お別れと思っていたが、意外と手軽にクラシック音楽に接することができたのはうれしい誤算であった。
- 日本ではかなりレベルの高い演奏を聴くことができるので、その感覚でいるとがっかりすると思うが、ある程度割り切ることができると、値段も安く気軽に聴けるのでベトナムで演奏会に行くのも悪くないと思えるようになった。
- 私の地元は北海道旭川市であるが、「くるみ割り人形」や「メサイア」といった大曲が来ることはほとんどなかった。でも、そのような曲をホーチミンで見ることができたのはとても幸運だった。
- ところでベトナムの小中学校では日本ほど音楽教育が進んでいないようである。そのせいか、クラシックの演奏会に来るのもごく一部の富裕層のベトナム人と思われる。音楽教育がもっと進み、子供たちをはじめベトナム人がもっとクラシック音楽に興味を持つようになると、先のHBSOの演奏技術は上がり、聴衆のマナー向上にもつながり、何よりベトナム人の世界的な演奏家が生まれてくるのではと考える。まだまだ発展途上と言った感じではあるが、この先どう発展していくかがとても楽しみである。

